

歯は失ったら取り戻せない大切なもの

～けがの原因を探り、防止策を考えてみましょう～

歯と口のけがは、主体（人）、環境、用具などの要因が関わりあって起こります。それを防止するためには、過去の事例やヒヤリ・ハット体験を分析し、事故やけがの要因に応じた対策や指導を行うことが大切です。



DVDは、授業にも活用できる内容となっています。児童生徒と一緒にぜひご覧ください！



歯・口のけがを防ぐための10か条



1. 日頃からの管理と指導

- 朝、授業や活動の途中・前後に、健康観察をする。
- 食事、運動、休養・睡眠の調和の取れた生活と敏捷性や調整能力等の基礎的な体力作りに努める。
- 施設・設備や用具、教室や運動場等の安全点検を行い、環境を安全に整える。
- 活動場所や内容、運動種目等に応じた安全対策をする。
- 危険な行動を見つけたら、改善のための指導をする。
- 安全な活動や用具等の使用に関するルールを決め、お互いに守るようにさせる。

2. 危険を予測・回避するために

- 事故の事例や「ひやり・はっと」した場面等を題材に、危険予測・回避の学習をする。
- 体の接触、ボールやバット・ラケット等に当たることが多い運動では、マウスガードの着用も検討する。

3. けがをしてしまったら

- けがをしたところを清潔にし、応急手当をする。
- 抜けた(欠けた)歯を拾って、速やかに歯科医を受診する。

【出典】スポーツ事故防止ハンドブック
※掲載の資料は学校安全webでご利用いただけます

歯・口の外傷への対応



歯・口の外傷発生

口唇・口の中の粘膜の外傷

口の中が切れた

出血が
少ない

様子をみる
口の中の傷は治り
やすい

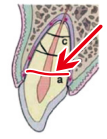
唇が切れた

圧迫止血をする

出血が
多い

傷口が大きければ
清潔なもので圧迫
する

歯根破折の疑い



痛みのある
時は早めに
歯科医院へ

歯冠の亀裂



とくに手当の
必要はない

あり
動揺

なし

線が入った
歯が欠けた

あり

歯冠破折



- 神経が見えていれば
すぐに歯科医院へ
- 神経が出ていなければ
慌てなくても大丈夫
- 大きな歯の「かけら」
は探して持参する。
(「かけら」は保存液に
つける。)

歯の外傷

なし
歯の位置異常

あり

脱臼



不完全
脱臼

安静にして
歯科医院へ



完全脱臼

歯を探して
保存液か
牛乳に入れて
歯科医院へ



陥入



歯が中に
めり込んだ

清潔なもので
圧迫止血し
歯科医院へ

下顎骨
骨折



歯並びがずれた、
痛みが強い、
口が閉まらない

119番通報

顎関節の外傷

耳の付け根が痛い・腫れる
冷やして歯科・整形外科等へ



【出典】 スポーツ事故対応ハンドブック